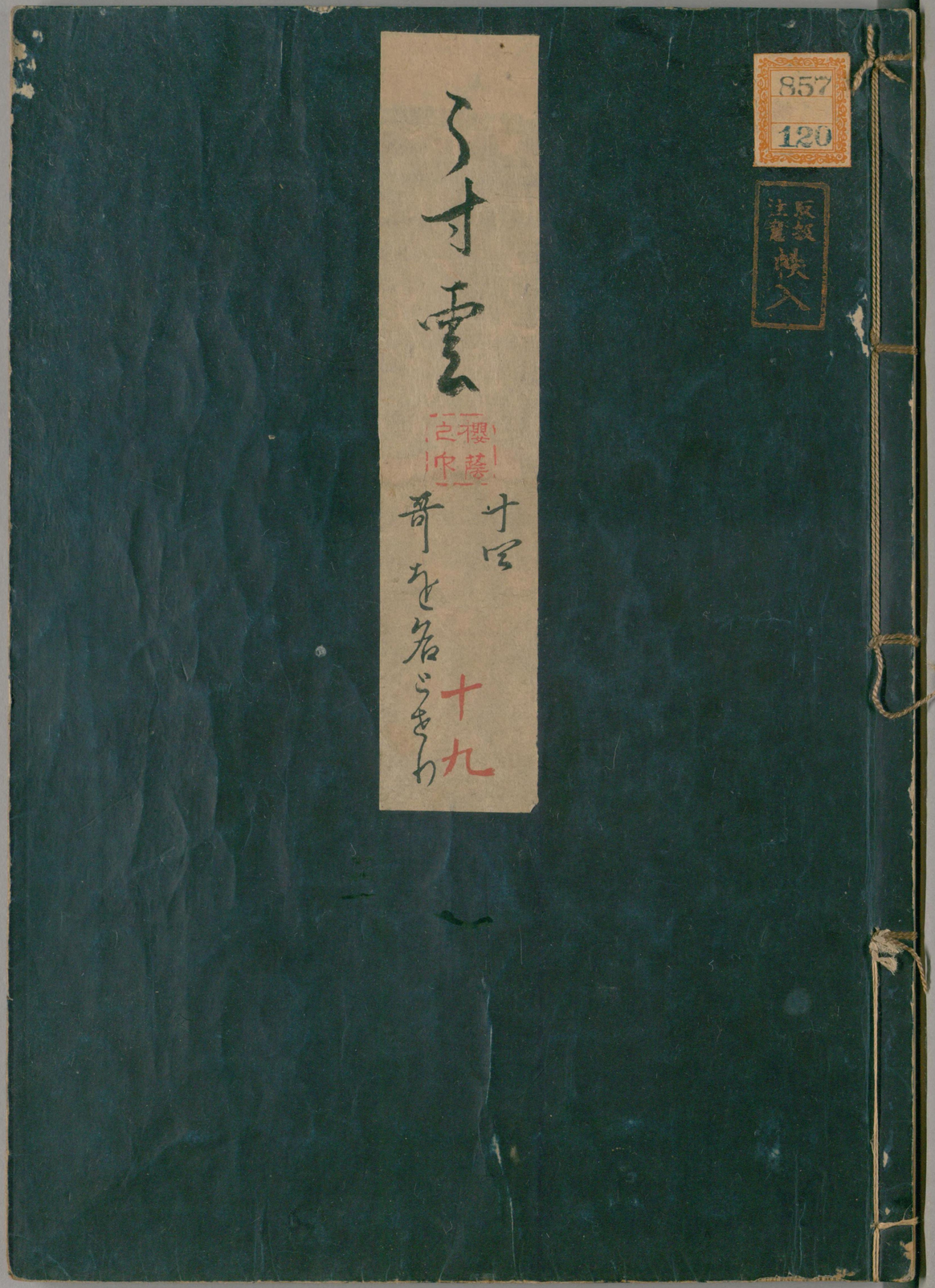
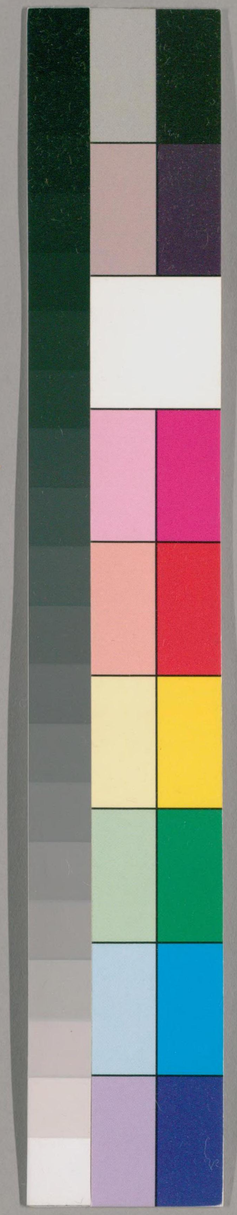




国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

857-120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

いうじうおぼして

末とをさふる葉の松にひきわれいけり

木ぐらさかげをうるべき。えもいひやらず。いうじう

なけば。さりや。おれくるしとおぼして

おひそめしねもふりければ。今海の松に

こまつのちりをなしべん。のざりにをとなぐさめ給。

さうことしハ。おひ志げ。むれど。えなん。こへざるもけり。

めれどのかねとて。おてやりなる人。げり。れたし。

三景一デ用テ読ヨリ図ヨリ是ニカロスヘ

おまがつやうの袖とりてのる。人ぐまひにうつさ

人給副車 私副車両字 訓点ニ秘抄 之表紙ニ光院手跡ニテ注之但此ニ不注之

ワクハ。ワクハ。なぐのをて。れをくりに来しす。

天児

大張子ヲ産屋ニ置ク事ハ是天児ト云物ノ厭勝ヨリ起リテ上下ニ通スル故實トハ成ナレリ 江家次第立太子ノ條ニ幼坐ヲ駄阿末

ありけり人のすくをかれとおもほせ。うれ喜ぶ

おしつすれぐし。おまそぐさの程まで。ゆしくとめで

しく。けしつさまこのほれ。ほどなぐ。いへださら

なり。よそのねにしひやらん程の心のやうをしハり

給ふ。いとうろぐるしかれば。うちへしの給ありけり。

なりまりかく口おしき。物のほどなしすぐるまもて

なし給ふとしきゆり袖ならねんじあへぞうち

なくけるひ衣なり。ひめ君いなる心もなくて。此車に

のらんことをいそぎ給。よをうろ所ま。たしきみうつ

かしいぐさいでぬへり。うこ。ことのこと思ひいとうつ

くしうて。袖をとしへてのまとうまへと。ひくも

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

ほの四段にむかひ[illegible]
れいし人も宮もやうも給ひすなき給さ面いとゆゑじ。
ほのまゝ[illegible]
なぐさうしも心よりさ面ほとゝ人のをなげし
人をどいかゝ人よりものれありさ面をたゞの世
まつけてもおくしくおしき人のれ有様を。
可惜許 按
心まゝなるふつぎなるもじ。かけとぐめきたえんかた
なく。いふひなくなげさらくこと很なし。
深討 たゞかぐ
しかしぬ身なぐらもむかしよりれうしろこつう
まつるべきことを心のいたりかぎりいとゞろかなしず
たひぬふるに。なげきおとゞのかれさまひぬるを
ぐる世中こゝろあてたくしくしの人らくなり。又
[illegible]
うくおりしまをいよろげまこゝろえぐれ給りて。世ま

いまし火なるものきしいかすまして 為中と能給の事也 源氏云 [illegible]
如烟盡灯滅 [illegible]
論衡云人之死也猶火之滅灯滅而燿不照人死而智不慧
給ほどまともし火なるどのきえいるやうにてそて給
ぬれば。いふひなくなるしきことをなげしなけく。
地元より為中の行迹をいふ或なるかなし
うしろきれ身の行とゆゑ中にも。れ心ぐるへなどの。
[illegible]
豪家 有千人郷謂豪 史記註楊冠字曰徳万人者謂之俊徳千人者謂之豪 百人者謂之英也 已上浜江
字書曰 淮南子曰 智過百人謂之豪
けることよきて。人のうれへとあることなどもをの
づからうちまじ事をいさゝかもさやうなることを
えぐれなく。人のつうまつることをも。世のくるし
ひとあるべきことをばとぶめぬふ。
秘 [illegible]
すじ。むかしよりなて。いかゞしうしう
[illegible]
なふ人なるどむかしのさうしき世にも。これをけるを。

これいさやうなりことなく、こぐ、もとよりのこゝろ

もれ、えぬゆべき川うさ、かうふりぬ、うふの、もれく、さうへ

しきをうをなへれば、ほとワくまじき山ぶしなどまで

おしこ、つのも、おさ、ぬなりまも、世中ひぐきてかなしと

しらぬ人なし、あるべてひとろ色に、ふろこ

ワくりて、ものゝ、こへなき、其の音なり。二深院の御前の

猶をぬくんじても、姿のしんのおりなどおぼしいぶ。

しとしどうりてひとりごちなて、人の見とがぬ

川べ、かれば、ぬんぜぐうまこ、ありぬなて、日ひとひ

ありさくしてまふ、かひもれやかりさして、

深草の地へのさうし心あらハことし升色しきそめにさけ

山ガノ心ニハアラス岑ノ梢ノ雲ト岑トノアハヒニ見ユルシ云ルヘ

やまぶきの、まず、忍あらはなりて、雲のうすくけて

わりがまび色なりをおぼしさ

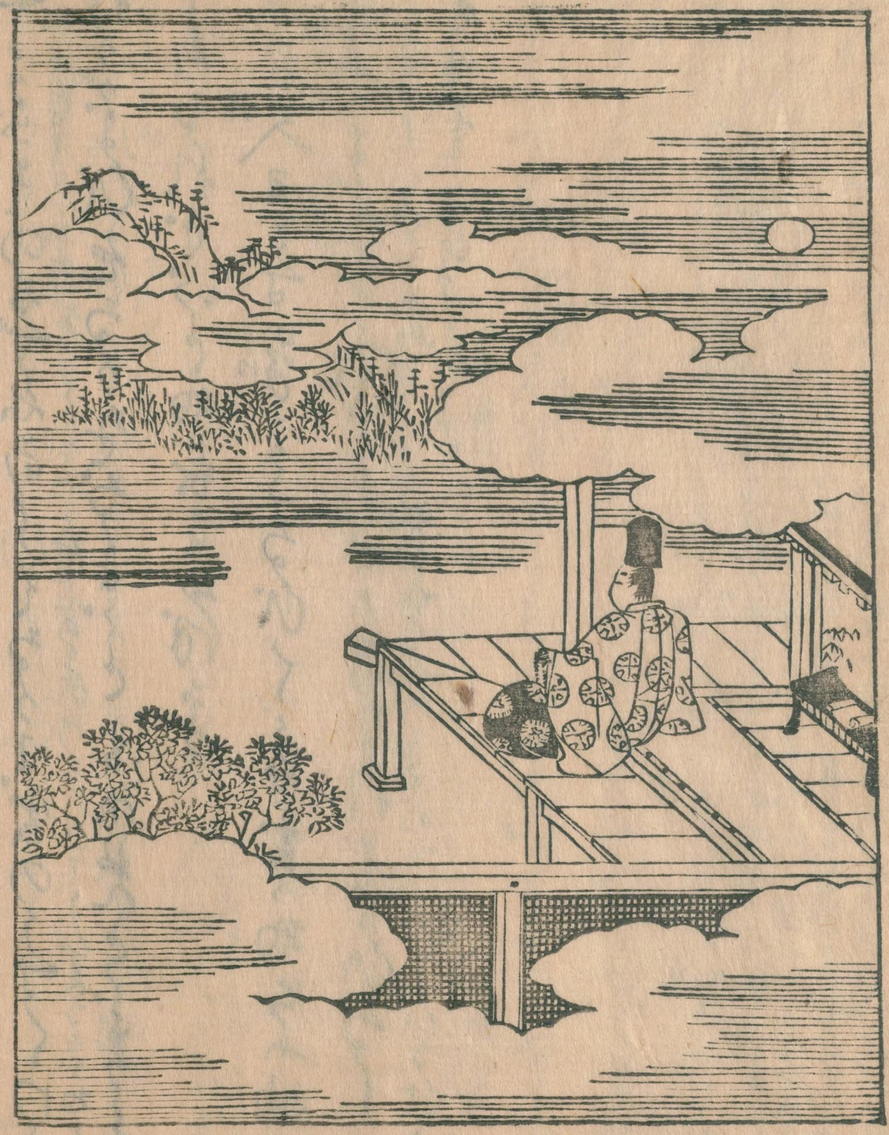
ころなれど、いと柏衣におぼさ

入日さす峯ほ、まるびくうす雲ハ柏とふ袖に

いろやまぶへ、こさうぬ、こころなれど、うひなし。

人きうぬ、ぬうれど、うひなし

地ニ、弁ハ、ナ、先輩堂にて、ひとうなりしかし



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

などいとこへがうおぼし侍れど、おほをごとも乃
りしこそまより、ふりきれ心ざしをそへてとて
きつふまゝ、しげうなりあるけきこり、人もちくさ
ふしもぞおりはまりでなどしぬる程まゝ、こゝにいる
うちもしぶきつゝ世中のことぜそうしぬふつゐ
でまいと、そうしがたくそかりていつゝまもや
まりあくらんとしぬへらじうらことおほれど、
しろしめされぬまつゝをもくて、天のまなこおそ
ろしくしふぬへらることをこゝろまむとび侍けく、
いのちをもり侍なばなまのやくかは侍らん、仏も心
ざくなしとや思しめさんどぞりそうしさして、

天眼のあるべく
秘行をまいてん
りんとなるを天眼は
天眼ノ一也 帝獄発
天眼の事 思見也

夜の侍は二間に候てるとしいね侍のまゝに
なれど、おほをごとも乃
りしこそまより、ふりきれ心ざしをそへてとて
きつふまゝ、しげうなりあるけきこり、人もちくさ
ふしもぞおりはまりでなどしぬる程まゝ、こゝにいる
うちもしぶきつゝ世中のことぜそうしぬふつゐ
でまいと、そうしがたくそかりていつゝまもや
まりあくらんとしぬへらじうらことおほれど、
しろしめされぬまつゝをもくて、天のまなこおそ
ろしくしふぬへらることをこゝろまむとび侍けく、
いのちをもり侍なばなまのやくかは侍らん、仏も心
ざくなしとや思しめさんどぞりそうしさして、

侍りはいとしきとしへと
あり一部ゆるすとは定りたし必覚等供をしたるなりを
あるけりしやうや又えうちいてぬことあり、うへなるまゝとなんこれ
大かたこまてもさもあるまゝ
いさしうゆるりうし
世をすてたるに侍人
もせをいとふにうとのるにとひ
しりせをしけるれようりけれ
そのかれ

冷ん
衣侍の方をすとのすふをあるとさあるとを
又住所にひしきとしたるとこ
ふしとはしとはしたるに侍のかりしとしたるとを
世ましうしたるのそうへくしふことやあらんぬうしは
寛等供奉ノ夏ハ又何ヲ二テモ出家ニモヨユサヘノ紹アルナラヒトヘ
ひしりといへば、おりまじきよろ猶のそこ○こゝろく。
うたてあんなりもれとと思していたけなりし
ありあるけしとしたるとあり
とさより、帰てしふことなるさ紙、そこまはうく悪び
のこされたること有けるをなんつゝくしひぬると
の給はすれば、おなかしこさしよ仏のいさめまもる
給しんこしのつきこちをぞまかくしとぞ思ら
ことなくひろめつうまつれり、ましてしまく海
あることなるまゝとまゝ侍らんこれはきしかたゆく
ささのだるゞと侍ることを、すぎおりしまし

侍り
此人養せんとてかたのさるをまづ
桐壺帝に

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

秋のつかさめし　県召除目　春の除目ハ諸国の司をめして任せらるゝ故ニ県召除目といひ秋ハ京官をめして任せらる

京官のつかさめしと云

よろづにぞおぼしける。秋のつかさ
めしに。太政大臣になり給べきこと。うちうちにさだめ
申給ついでになん。みかどおぼしよするすぢの
ことも。もらしきこえ給けるを。おとゞいとまばゆく
おそろしうおぼして。さらにあるまじきよしを申
返し給。故院の御心ざし。あまたのみこたちの御中に
とりわきておぼしめしながら。位をゆづらせ給はん
ことをおぼしよらずなりにけり。なにかその御
心あらためて。およばぬきはにはのぼり侍らん。たゞ
もとの御をきてのまゝに。おほやけにつかうまつり
て。いますこしのよはひかさなり侍りなば。のどか
なるおこなひにこもり侍りなんと。おもひ給ふると。
つねの御ことのはにかはらずそうし給へば。いと
くちをしうなんおぼしける。太政大臣になり給べき
さだめあれど。しばしとおぼす所ありて。たゞ
位そひて。牛車ゆるされてまいりまかで給を。
みかどあかずかたじけなき物に思ひきこえ給て。
猶みこになり給べきよしをおぼしのたまはすれど。
世中の御うしろみし給べき人なし。権中納言大
納言になりて。右大将かけ給へるを。いまひときは
あがりなんに。何ごともゆづりてん。さてのちに
ともかくもしづかなるさまにとぞおぼしける。

寛弘八年八月左大臣道長　聴輦車　右大臣公季
天延三年二月廿八日聴輦車
康平二年左大臣　車出入上東門云々

女はのれかたまつりぬへり。こ海やうちうまひ色
のれちまをしすぐしまて世中のさはがしきなど
ことつけぬひてやがて出きうぶんちれバずひさ
うしてれこ海よくもてなしぬへるつきとずなま
めしきれ有様まてこ寸のうちよいつまぬぬれ九様
ぢうりを備て身つくしこうしこ給前裁どもこそ御り
なくひもとき侍るれいと地ときまじきこし
なるを心やまて時しりかほなりもあくれまこそ
とてこうしらまよりぬぬへるかぎへいとめでこし
芳のれことでもかれ堂のこまにうちつづひし明
日のなじをきそいでぬふいと地衣と見しうり

源ハイ

我さふ人無
草葉の露なれや
かくれを袖の
えそほつん

女もかくれどとまや。すくしなき給けるひいとらう
こげまて。うちうじろきぬふ日どもおさましくや
ちしかまぬ。ちままめきて。おまくすべかめり。こまらぬこそ
うちかしかれど。むしのうちつぶくぞうこそあるや。
おもひちやむべきことも
くて。侍りぬべかりし世中まもなくこころうら
すきぐしきことまつけて地しひのこえずも侍
けるかれ。さるまじきことだの心ぐるしきがあまる
侍しなるまつぬまこころもとけず。むすぼれて
やこめりこと。ふろうちん侍る。まづひとつも。此せざ
給ましれことよ。おさましうのこしひつめてやこ給

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

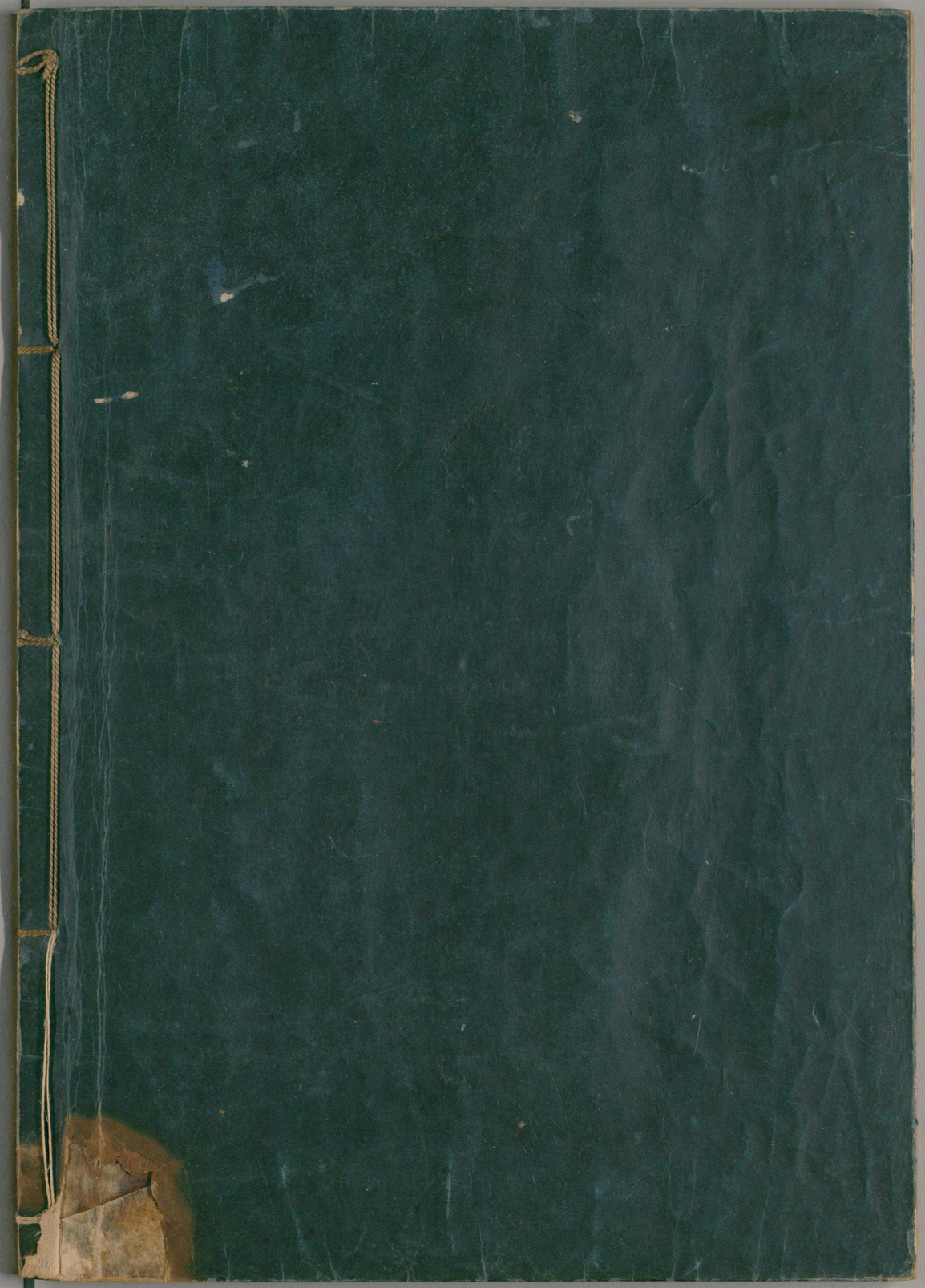
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用